

拝啓 今年も早や5月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。わが家の庭に今年もスイトピーが2メートル以上の高さに伸びて赤やピンクの花を咲かせ、道行く人々の目を楽しませてくれています。

今回は新渡戸稲造先生の『人生雑感』からの2回目、「友会徒の生活」という講演録から引用です。(5)のところに次のようにあります。

「クエーカーは正しいことをするに躊躇しておらぬ。…自分の心になすべしということはやる。…こういうわけであるからして、友会徒の生活においては、まず黙祷ということを重ねるのである。すなわち祈禱するにも、大きな声を出してするよりも、黙祷を重ねるのである。クエーカーは日に2度も3度も黙祷をやっている。何をすることも、一寸自分の心で神様に伺ってから、良いと思えばやる。」この箇所を写して、なるほど、ここに新渡戸先生（そしてクエーカーの人たち）の実行力の秘訣はあったのだと思いました。恵心流キリスト教の信者は、「常住坐臥時節の久近を問わず」称名するわけですから、新渡戸先生と同じように力を頂けると言ってもよいと思います。

5月19日、津山で、津山土岐家財団の理事会、評議員会を開いて、私が2年間務めた理事長を辞任し、中島壯太先生（中島病院理事長）にあとをお譲りしました。2年間お世話になった理事・評議員の皆様は津山まで行っていただき、津山土岐家財団記念館の建物を見て頂き、また翌日市内をご案内しました。当初、突然財団を引き受けなくなることになった時は、途方にくれましたが、東京では、親しい友人に助けられ、津山に行くたびに、「わが主イエスよ、わが主イエスよ」「万事は益となる」と心に繰り返して、素晴らしい方々に出会い、2年間の仕事を終えることができました。しばらくは理事として残ります。

5月3,4,5日の連休中に、川口重雄先生（元丸山眞男手帖の会代表）の見学旅行会に参加し、東北被災地の見学に行ってきました。今回は、仙台市より南部の平地部の被災地後の見学旅行でした。閑上（ゆりあげ）小学校（今は津波遺跡として保存）で、当時の時間を追いながら津波が迫ってくる映像と、その時間に校長先生と教頭先生が生徒と住民を屋上へ避難させていった証言の組み合わせのビデオを見たことは、リアルタイムの津波災害と避難の再現で、感動を致しました。平地部では、ひたひたと津波が来て、水位が上がっていったのだらうと思っていたのですが、リアス式海岸と同じように、ものすごい力で家や車をなぎ倒していったことを知りました。

これから梅雨の時期に向かいますが、皆様もどうかお身体ご自愛のうえ、お過ごしください。

敬具

平成29年5月24日

山口周三

エンカウターの読者各位